

平成24年度 第3回がまごおり協働まちづくり会議 会議録

日 時 平成24年8月28日(火)

15時00分～17時10分

場 所 蒲郡市役所 新館5階 庁議室

出席者：和泉会長、金子副会長、西川委員、尾崎委員、山本久代委員、山本智史（水野委員代理）、小林浩子委員、小林康一委員

（事務局）吉見、小林正、石川、山崎

欠席者：竹内委員、小田委員

第3回会議決定事項

議題

(1) はじめの一步部門追加募集審査結果について

- ・追加募集は3団体応募、3団体助成決定（満額）

(2) 平成25年度助成金事業について

- ・広報12月25日号で募集告知
- ・助成金の各部門の金額は今年度と同額
- ・備品購入についてワーキンググループで議論を実施

(3) 平成24年度モデル事業について

- ・居場所、花苗、竹林対策を提案。竹林対策を軸に検討を進める。

1 開会

2 議題

(1) はじめの一步部門追加募集審査結果について

○ 応募状況等について

- ・追加募集は応募3件。8月19日に面接審査を実施し、3事業とも基準点を満たし合格、助成額は満額。応募団体は「蒲郡市民病院を守る会」、「じゅげむの会」、「特定非営利活動法人北斗寮」の3団体。
- ・予算残額の33万はまちづくり基金に積み立てる。

○ 募集時の相談状況等について

- ・まちづくりセンターに2回以上相談した団体は14団体。内、3団体が応募。
- ・応募に至らなかった団体の理由は、備品購入ができない、会員3名以上の条件が満たせない、事業実施時期が今回募集では間に合わない等。

(2) 平成25年度助成金事業について

○ 平成25年度の助成金額について

（事務局）

助成金額について、平成22年度はほぼしる300万円、はじめ50万円、23年度からほぼしる250万円、はじめ100万円。「ほぼしる」の申込額は毎年予算を超えているが、「はじめの一步」は、23、24年度と予算額を下回っている。25年度の予算配分について議論。

○ 各委員の意見は下記のとおり。

- ・ 「ほとぼしる」は各年で申込が増減している。25年度は申込が増加することが予想される。
- ・ 出来るだけ多くの人に資金を使ってまちづくりに関わってもらいたい。
- ・ 判断材料が少ない。5年位のスパンで変化を見た方が良い。もう1年このままの配分で良い。
- ・ 「はじめの一步」は1期間で実施するかどうか。
- ・ 上限枠100万円に満たない場合は追加募集をすべき。
- ・ 「ほとぼしる」、「はじめの一步」両方ともしばらく推移をみる方が良い。
- ・ 「はじめの一步」については、前期後期を続けてみるのがいいと思う。
- ・ この助成金も情報が広がってきていると感じているのでしばらくこの状態で良い。
- ・ 「はじめの一步」追加募集ではたくさんの相談があったが、申請まで持っていけなかったのが残念。

結論

「ほとぼしる情熱支援部門」と「はじめの一步部門」の助成金額は今年度と同額。

○ その他意見等

- ・ 現行制度では物品購入3万円以内だが、事業の継続性を考えた場合疑問がある。
- ・ 審査会でその物品が事業に必要不可欠との判断がされれば、3万円を超える物品購入も認めている。(事務局)
- ・ 物品購入のシステムなどは、まちづくり会議ではなくワーキンググループで対応した方が良い。企画公募事業の他にも物品支援を目的とする制度あるので、調査して活用の可能性を議論すべき。
- ・ ワーキングでは、過去の助成団体OB等にアドバイザー的な協力を求めることも検討すべき。
- ・ 物品購入だけでなく全体的な議論を一度ワーキンググループでした方が良い。
- ・ 「ほとぼしる」と「はじめの一步」が同じ制度で良いかも検討する必要がある。
- ・ 高額な備品は市民活動にとって大きな問題。備品購入には5年の事業継続等何らかの条件を付ける必要がある。
- ・ 備品条件を緩和すれば、申込件数が増える可能性もある。
- ・ 助成金も年数を重ねてきて経験者が増えてきているので有償アドバイザーが制度としてできれば、申込者を後押し出来る。
- ・ 備品購入については、経過を見る仕組みを作って条件を緩和してみるのも良い。
- ・ 3万円を超える備品購入については許容する数字を作っておけば良い。
- ・ 「はじめの一步」で10万円満額では事業への助成ではなくなる。
- ・ 備品購入についてワーキングで議論すべきだが、今回募集に間に合うか。
- ・ 審査委員に事業経費の細かな情報提供があれば事前にチェックできる。
- ・ 審査時にアドバイザーが同席できれば良い。
- ・ アドバイザー同席では本人達の情熱や意志が不十分となる可能性がある。

結論

備品購入については、ワーキンググループで議論し、次回会議の議題とする。

(3) 平成24年度協働モデル事業について

モデル事業候補の3事業「高齢者の居場所づくり事業」「花苗事業」「緑のネットワーク(竹林対策)事業」について事務局より説明。

- 各委員からの意見は下記のとおり
 - ・ 3事業とも行政とのかかわりをどう持たせるかが明確になっていない。
 - ・ 主体となる者が見えない。
 - ・ モデルとして終了した後も継続可能な事業が良い。
 - ・ 居場所づくりは、健康な高齢者とそうでない人で問題が異なる。
 - ・ 緑のネットワークはどのように環境団体に関わるかが課題。
 - ・ どの事業も可能性はあるが、竹林対策が可能性として高いのではないか。

結論

竹林対策事業を軸に検討を進める。